

受理番号及び 受理年月日	所 管	件 名 及 び 要 旨	提 出 者
28年－32 (28.11.22)	教 育 関連陳情 危機管理 28年－29 生活環境 28年－30 農林水産 28年－31	<p>鳥取県中部地震を受けた防災体制の強化（学校給食関係）について</p> <p>▶陳情理由</p> <p>10月21日の午後2時頃、鳥取県中部を震源に発生した震度6弱の地震は、まさに青天の霹靂であり、家の倒壊や瓦の落下など大きな被害をもたらした。まず、地震で被害にあわれた皆様にお見舞い申し上げます。</p> <p>そして、倉吉市や鳥取県など、行政現場の方は、休日返上、徹夜で、部局関係なく支援にあたられており、心より敬意を表するものである。避難所で支援にあられた行政職員の方は、現場のニーズを汲み取ろうと必死の支援をされていた。</p> <p>街は、地震で不安をかかえた人々ばかりの何とも言えない空気が。断水したため近くのスーパーに水を買に行くと、瓶が割れ、商品が散乱していた。そんな中、県は発災よりただちに見回りのヘリを飛ばし、他県からも応援に駆けつけてくれるなど「見守られている」感があった。知事も被害状況の確認のため、速やかに現地入りされた。こうした迅速な行動・判断は、被災者の方にとって、大きな心の支えになったと思う。</p> <p>一方、倉吉市において、市庁舎自体が破損して災害対策本部が置けず、急遽県の総合事務所に間借りして本部を設置するに至ったことなど、当初の想定と現実が乖離し、「想定外」の事態も起きた。あってほしくない"今後"に備え、想定外の事態を作らないことが必要である。</p> <p>成長期である小学生の給食がパンと牛乳だけという事実に関心を痛めた。週1回ペースでの給食は始まるようであるが、給食センターが被災した今、まだまだ「平常」に戻るのには難しい現実がある。一方、地震同時期のコンビニやスーパーは、たくさんの食品で溢れている現実。先日はNPOがハンバーグカレーの炊き出しに来てくれるなど、民間の支援の輪も広がっている</p>	足羽 佑太 (倉吉市)

	<p>が、民間はあくまで善意であることから、これがなくても成り立つ制度設計が必要である。</p> <p>▶陳情趣旨 リスクヘッジとって給食センターの代替をいくつも作ると、たしかに維持費などの問題も生じることから、せめて、大手コンビニなどと災害時における供給について協定を締結したり、近隣市町村と分担協定を締結するなどして、子どもたちに満足のいく食事を提供すること。</p>	
--	---	--